

夏の夜など通行人の前に、大入道になつて立つともいわれる。

(話者 古川明)

臼雅堂の由来

臼ヶ堂には、臼転ばしという化物がいたという。狐とも貉とも狸ともいわれる。夜な夜な向いの御宅臼景のあたりより、大臼を転ばすような「ゴロ ゴロ ゴロ」という物音が聞こえるという。

ある時、一個の臼に似たものがどこから持つて来たのか、川の岸に置かれていた。村人が集つて見たが、木でもなく、石でもなく、判断できなかつた。

時折しも、無底禪師、奥州に下向した。この臼を見るためこの地に、錫杖を留めて御堂を建てて、この臼を台として、上品上生の阿弥陀仏を安置して、臼雅堂と号したといわれる。以来、臼を転ばす音は聞こえなくなつたといわれる。

時遷り變り、いつしか御堂も臼も失つて、今は昔の物語りとなり、臼ヶ堂の地名だけが残つている。

(「長沼名義考」より)



臼雅堂遠景